

授業科目 (ナンバリング)		調剤Ⅰ (事前学習) (N4F411) (実践的教育科目)		担当教員	大磯 茂*・早川 正信*・室 高広*・ 神田 紘介*・大久保 伸哉*・末廣 真理恵*・ 中島 健輔*・藤本 京子・川崎 達也 (*実務経験のある教員)		
展開方法	講義・演習・実習	単位数	2 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
卒業後、医療、保健活動に参画できるようになるために、薬局および病院における実務実習に先立って、処方せんと調剤、医薬品の管理と供給等に関する基本的知識、技能、態度を修得する。							①②④⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	<ul style="list-style-type: none"> 医療の担い手が守るべき倫理規範、患者・生活者の個人情報や自己決定権を説明できる。 処方せんに基づき医薬品の調製をシミュレートできる。 特別な配慮を要する医薬品の管理方法を説明できる。 				筆記試験 実技試験	40% 40%	
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な医療用語、略語の意味を説明できる。 医薬品情報を適切に使用できる。 				筆記試験	5%	
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> グループ討議により作成したプロダクトを適切に発表できる。 他グループの発表に対し質問やコメントを適切にすることができる。 				グループ討議・プレゼンテーション	5%	
協働・課題解決力	<ul style="list-style-type: none"> 提示された症例の問題点を指摘し、その解決策をディスカッションにより提案できる。 				課題レポート	10%	
多様性理解力	<ul style="list-style-type: none"> 患者・利用者に配慮した適切な態度および行動ができる。 				観察記録	0~1.0 (評価方法参照)	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> 筆記試験と実技試験から成る随時試験の結果、レポート、小グループディスカッション (SGD) およびその発表により評価する。 筆記試験は、講義、演習・SGD および実習で行うすべての項目を出題範囲とする。 実技試験は、計数調剤、計量調剤、分包、調剤薬鑑査のうち、指定する1つ以上の項目の習得度を評価する。 レポートは、SGD 実施日から1週間以内にポートフォリオに提出されたものについて、自分なりの視点をもって論理的に書かれているかを評価する。指定条件を満たさない場合ならびに誤字・脱字は、減点の対象とする。 レポートおよびポートフォリオ課題のフィードバックをポートフォリオで行う。 観察記録は、指示事項の遵守度、身だしなみ、授業態度等を評価する。観察記録による態度等の評価は0~1.0の評価点に換算し、他の項目の評価点の合計に態度等の評価点をかけたものを最終の総合評価とする。 							
授業の概要							
<p>病院または薬局における薬剤師としての実務経験を有する教員が、その経験を講義、演習・SGD 及び実習に活かし、4月から5月にかけて、講義、演習・SGD、実習が一体化した形式で授業を行う。SGD 後にはレポート提出を課す。実習については、事前に実習書を配布する。また、理解を深めるために、ポートフォリオに演習問題を出題する。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、講義として行うものは112.5分、演習として行うものは45分、実習として行うものは45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書:実務実習事前学習テキストブック(京都廣川書店):教科書① グラフィックガイド薬剤師の技能 第2版 ー理論まるごと実践へー(京都廣川書店):教科書②</p> <p>参考書:調剤学総論改訂13版(南山堂)、調剤指針第十四改訂(薬事日報社) スタンダード薬学シリーズⅡ 7 臨床薬学Ⅰ 臨床薬学の基礎および処方箋に基づく調剤(東京化学同人):教科書① スタンダード薬学シリーズⅡ 7 臨床薬学Ⅱ 薬物療法の実践(東京化学同人):教科書② スタンダード薬学シリーズⅡ 7 臨床薬学Ⅲ チーム医療及び地域の保健・医療・福祉への参画(東京化学同人)</p> <p>指定図書:実務実習事前学習テキストブック(京都廣川書店) グラフィックガイド薬剤師の技能 第2版 ー理論まるごと実践へー(京都廣川書店)</p>							

授業外における学修及び学生に期待すること				
医療における薬剤師の使命を理解し、生涯にわたる自己研鑽の必要性を認識して欲しい。医薬品が有効かつ安全に適用されるための調剤、医薬品管理等の薬剤師職務に関する知識、技能、態度を修得し、病院・薬局における実務実習につなげて欲しい。また、事前学習は実務実習前の準備学習であり、薬剤師としてのプロフェッショナルリズムの観点からの態度評価も重要視する。実習中における行動やふるまいなどに注意して受講してほしい。				
回	テーマ	授業の内容	予習・復習	到達目標番号*
1	臨床における心構え	医療の担い手が守るべき倫理規範と法令、患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応（講義） (大磯)	教科書①②の予習、配布プリントの復習	888、889
2	臨床における心構え	医療の担い手が守るべき倫理規範と法令、患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応（演習・SGD） (大磯・早川・室・神田・大久保・末廣・中島)	教科書①②の予習、配布プリントの復習	888、889
3	医薬品の供給と管理（1）	医薬品管理の意義と必要性、医薬品管理の流れ、医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件（講義） (大磯)	教科書①②の予習、配布プリントの復習	959、960、966
4	医薬品の供給と管理（2）	劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬および覚醒剤原料等の管理と取り扱い（講義） (大磯)	教科書①②の予習、配布プリントの復習	961
5	医薬品の供給と管理（3）	特定生物由来製品の管理と取り扱い、代表的な放射性医薬品の種類と用途、保管管理方法（講義） (大磯)	教科書①②の予習、配布プリントの復習	962、963
6	患者情報の把握	基本的な医療用語、略語の意味（講義）（中島）	教科書①②の予習、配布プリントの復習	986
7	処方せんに基づく医薬品の調製	処方せんの種類・特徴・必要記載事項、処方せんに基づく薬袋作成（演習） (大久保・中島)	教科書①②の予習、配布プリントの復習	925
8～9	処方せんに基づく医薬品の調製 実習（1）	薬袋・薬札の作成、内用剤・外用剤・自己注射用注射剤の計量調剤、調剤薬鑑査（実習） (担当教員全員)	教科書①②と実習書の該当部の予習	925、926、927
10～11	処方せんに基づく医薬品の調製 実習（2）	薬袋・薬札の作成、外用剤の計量調剤、調剤薬鑑査、錠剤鑑別（実習） (担当教員全員)	教科書①②と実習書の該当部の予習	925、926、927
12～13	処方せんに基づく医薬品の調製 実習（3）	薬袋の作成、内用散剤の計量調剤、調剤薬鑑査（実習） (担当教員全員)	教科書①②と実習書の該当部の予習	925、926、927
14～15	処方せんに基づく医薬品の調製 実習（4）	薬札の作成、内用液剤の計量調剤、調剤薬鑑査（実習） (担当教員全員)	教科書①②と実習書の該当部の予習	925、926、927
16	随時試験	筆記試験 (大磯・大久保・中島)		
17	随時試験	実技試験 (担当教員全員)		

注) 上記の第1回～第12回は、授業の概要を示したもので、講義の順番は変更される場合があります。

* 到達目標番号と到達目標の対応は、大学HP掲載のコアカリSBO番号/項目対応表を参照して下さい。